

第 1 回国際会議へ向けた GFC 関連動向について

令和 7 年 12 月 19 日

環境省環境保健部化学物質安全課

第 1 回国際会議（IC-1）が 2026 年 11 月 15～20 日の日程で、スイス・ジュネーブで開催されることが正式に発表された。本資料は、本年 6 月開催の第 1 回 GFC 公開作業部会（OEWG1）以降の GFC 関連動向について報告する。

1. UNEP 及び関連機関が主催する会合等

（1）測定可能性・指標策定

「測定可能性と指標に関する臨時公開作業グループ」の第 6 回会合が 8 月 27 日にオンライン開催され、OEWG 1 以降の進捗状況が各 Workstream (WS) から報告された。WS 1 は既存の関連指標についての妥当性評価を進めてきたが、絞り込んだ 22 指標についてのギャップ分析を完了し、現在ファクトシート作成を進めている。一方、ハイレベル指標（環境負荷・疾病負荷）は継続検討と評価され、それに伴って、WS 方式から専門家プール方式への即時移行、専門家公募が 9 月初旬に行われることが報告された。

続く第 7 回会合（11 月 19 日オンライン開催）では、以下のような新体制設置の報告があった。

- ・ 小規模専門家グループ：4 グループが設置され、戦略的目的（C を除く）に対する指標策定を行う
- ・ 環境負荷および疾病負荷に関するタスクフォース：専門家プールから選出され、ハイレベル指標検討を行う

環境省は国立環境研究所に専門家プールへ参加呼びかけた他、オンライン会合では新体制設置に係る意見発言や報告があった指標提案への文書による意見出しを積極的に行った。

【確認事項】

小規模専門家グループにて議論されている指標候補やそれに対応するファクトシートを参考資料 4 に示す。必要に応じ、関連の指標についてコメントあればいただきたい。

（2）ケミカルフットプリント・アプローチに関する作業部会

ケミカルフットプリントは、製品や製造過程で使用する化学物質の量・リスクを定量化し削減するための手法であり、GFC 戦略的目標 A3（ライフサイク

ル影響最小化)、D1 - 4 (安全な代替品促進)、D6 (安全な代替品促進) へ大きく貢献する。

本年 9 月、UNEP と化学物質の適正管理のための組織間プログラム (IOMC) が中心になり、ケミカルフットプリント・アプローチに関する 3 つの作業部会 (WG) を設立した。現在、IC1 へのインプットを目指して、用語集作成やガイダンス案策定などの作業を進めている。

WG1: 用語・方法論の調整と国際標準化に向けた作業

WG2: 産業界向け適用に関するガイダンス策定

WG3: GFC ターゲットに沿ったケミカルフットプリント実施への産業部門の取組促進

これまでに 3 回のオンライン会合が開催されており、環境省は参加により WG 進捗の動向把握を行っている。

(3) National Focal Point (NFP) 向けガイドラインへの日本事例紹介

本年 9 月、UNEP-WCMC の政策チームからの要請に基づき、日本の GFC 国内実施計画の策定において重要な役割を担った「関係省庁連絡会議」および「化学物質と環境に関する政策対話」に関する情報を提供した。本ガイドラインは、国内連絡窓口 (NFP) の責任や機能を提案することを目的としており、各ステークホルダーグループの意見を反映して作成されている。日本における国内実施計画策定の事例は、幅広い関係者との協働を通じて、複数のステークホルダーを効果的に動員する重要性を示す好事例として評価を受けた結果となる。

また、UNEP-WCMC は能力形成戦略も同時に草稿作業を進めており、9 月にレビューのためのオンライン会合が開催され、環境省は参加して意見出しを行った。

2. 化学物質管理によるネイチャーポジティブ推進検討会

GFC 国内実施計画のターゲット E6 では、「例えば、「生物多様性国家戦略 2023-2030」で掲げる化学物質や農薬等による汚染の削減に貢献するため、国内の化学物質管理及び生物多様性に関する有識者等で構成する検討会を組織し、ネイチャーポジティブに貢献する化学物質管理の推進方策等の検討を実施する。」と記載されている。本検討会は、化学物質管理とネイチャーポジティブを統合し、国際・国内目標に沿ったアクションプラン作成をめざしている。委員には大学・研究機関の専門家 10 名を招聘し、座長は国立環境研究所五箇教授が務めている。令和 7 年度中に 3 回の検討会を実施予定であり、現時点で第 2 回まで実施済。本年度内にアクションプラン (ver. 1.0) を策定し、次年度以降継続的に改善を行う予定である。

(以上)